

第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 国土交通大臣賞・環境大臣賞 決定



左上	:	国土交通大臣賞	屋上緑化部門	目黒区立目黒天空庭園
右上	:	国土交通大臣賞	壁面・特殊緑化部門	大正製薬関西支店
左下	:	環境大臣賞	屋上緑化部門	新目黒東急ビル 屋上庭園
右下	:	環境大臣賞	壁面・特殊緑化部門	緑ノビル

1 コンクールの目的

建築物の屋上等特殊空間（通常の方法では緑化が困難とされ、緑化に高度な技術を要する空間）の緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、省エネルギーの推進、生物多様性の確保、景観の向上等都市環境の改善に非常に有効であり、積極的に推進することが望まれています。

本年度で第 13 回目を迎える屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールは、屋上等特殊空間の緑化について、積極的に取り組み、優れた成果をあげている民間企業、公共団体、個人等を顕彰することにより、その一層の普及推進を図り、もって都市環境の改善を進め、豊かな都市生活の実現に寄与することを目的としています。

2 応募対象

- 部門 屋上緑化部門 建築物の屋上、屋根の緑化
- 壁面・特殊緑化部門 建築物の壁面、屋内（アトリウム等）、ベランダの緑化、土木構造物の高架上空間、高架下空間、人工地盤の緑化等

○応募できる作品 平成 25 年 3 月までに完成したもの

3 受賞作品 別紙 1（受賞作品及び受賞者一覧）、別紙 2（受賞作品の概要）

4 審査委員 別紙 3

5 表彰式 平成 26 年 10 月 22 日（水） 16:00～ 東京ガーデンパレス 高千穂 東京都文京区湯島 1-7-5 TEL：03-3813-6211

主催 公益財団法人都市緑化機構

後援 国土交通省、環境省、東京都、日本経済新聞社

特別協賛 住友林業株式会社

協賛 一般財団法人公園財団 公益財団法人都市計画協会 一般財団法人日本造園修景協会 一般財団法人日本緑化センター 一般社団法人日本公園緑地協会 一般社団法人日本造園建設業協会 一般社団法人日本公園施設業協会 一般社団法人日本建設業連合会 一般社団法人公共建築協会 一般社団法人不動産協会 一般社団法人日本造園組合連合会 一般社団法人日本植木協会 一般社団法人都市計画コンサルタント協会 公益社団法人日本造園学会 一般社団法人日本ビルディング協会連合会 一般社団法人日本建築学会 一般財団法人日本建築センター 一般財団法人日本宝くじ協会 一般財団法人民間都市開発推進機構 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

【問合せ先】公益財団法人 都市緑化機構 小松
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3 丁目 2 番 4 号田村ビル 2F
TEL:03-5216-7191 FAX:03-5216-7195

第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 受賞作品及び受賞者一覧

平成26年度

●国土交通大臣賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	目黒区立目黒天空庭園	東京都目黒区	目黒区
			首都高速道路株式会社
			東京農業大学地域環境科学部造園科学科 元教授 近藤三雄
			有限会社アースグリーン
			戸田建設株式会社
壁面・特殊緑化部門	大正製薬関西支店	大阪府豊中市	株式会社日比谷アメニス
			大正製薬株式会社
			株式会社竹中工務店
			株式会社日比谷アメニス

●環境大臣賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	新目黒東急ビル 屋上庭園	東京都品川区	東急不動産株式会社
			清水建設株式会社
			株式会社フィールドフォー・デザインオフィス
			東光園緑化株式会社
壁面・特殊緑化部門	緑ノビル	京都府京都市	合同会社桐畑
			株式会社宗本晋作建築設計事務所
			長濱香代子庭園設計株式会社

●日本経済新聞社賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	中之島 四季の丘 ・ダイビル本館	大阪府大阪市	関電不動産株式会社
			ダイビル株式会社
			株式会社日建設計
			株式会社大林組
			住友林業緑化株式会社
壁面・特殊緑化部門	京セラ原宿ビル耐震改修	東京都渋谷区	株式会社フィールドフォー・デザインオフィス
			清水建設株式会社
			京セラ興産株式会社

●都市緑化機構会長賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	プラウド大井ゼームス坂	東京都品川区	プラウド大井ゼームス坂管理組合
			野村不動産株式会社
			株式会社日建ハウジングシステム
			株式会社安藤・間
			イビデングリーンテック株式会社
壁面・特殊緑化部門	東急プラザ 赤坂 オープンコリドール 「野に咲く花の回廊」	東京都千代田区	東急不動産株式会社
			株式会社石勝エクステリア

●審査委員会特別賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	Sg / Secret garden 灘中学校高等学校	群馬県伊勢崎市	株式会社芦澤竜一建築設計事務所
			学校法人灘育英会灘中学校高等学校
		兵庫県神戸市	株式会社日建設計
			株式会社竹中工務店
			株式会社朝日興産
			野崎造園土木株式会社

国土交通大臣賞：屋上緑化部門

目黒区立目黒天空庭園

(所在地) 東京都目黒区

(受賞者) 目黒区

首都高速道路株式会社

東京農業大学地域環境科学部造園科学科 元教授 近藤三雄

有限会社アースグリーン

戸田建設株式会社

株式会社日比谷アメニス

■作品の概要

本作品は東京都目黒区にある、首都高速道路ジャンクションの屋上、地上高さ 7～35mに創出された面積約 7000 m²のループ状の庭園で、荷重は 1200kg/m²である。

特徴的緑化技術として、①植栽配置計画～みどり豊かな潤いある屋上庭園～、②ジャンクション屋上に対応した植栽基盤、③回遊式和風庭園としての修景施設の3点をあげている。

ゾーン毎に四季を通じて“彩り”を楽しむことができる植栽材料を採用し、年間を通じてそれぞれに“見所”を演出している。また、“香り”を楽しめる植物を積極的に採用し、回遊しながら植物の放つ香りが楽しめるよう工夫が凝らされている。仕立物のマツなど、木々の造形の変化が楽しめることも、本作品の特徴である。

防根機能も期待できるポリウレタン吹付塗膜保護防水を採用し、さらに防根シートも敷設することでジャンクションの躯体を保護しながら緑化を実現している。更に、この防水層と防根シートを保護するために、厚さ 80 mmの保護コンクリートを打設している。

舗装材や大型プランター、スツール等、園内の随所に海鼠（なまこ）色の信楽焼を用いることにより、庭園全体に格調高い印象を創り出している。また、タマリユウと自然石で市松模様を描いた壺庭をつくるなどし、新しい、回遊式和風庭園としての景色を整えている。

高密度な都市空間において、7000 m²の緑地空間を創出したこと。更に、急勾配の傾斜面の続く土木構造物上に創出された緑地は他に例がなく、緑の乏しい都市空間に緑地を創出する新たな手法として高く評価された。



国土交通大臣賞：壁面・特殊緑化部門

大正製薬関西支店

(所在地) 大阪府豊中市

(受賞者) 大正製薬株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社日比谷アメニス

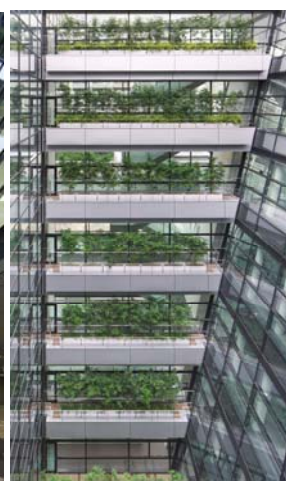
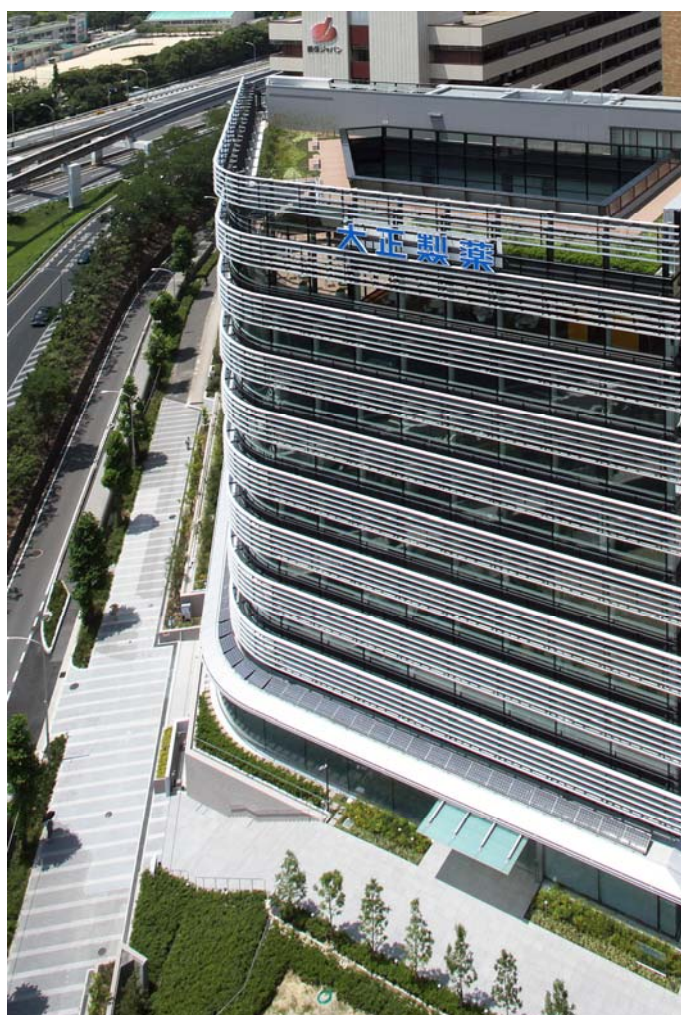
■作品の概要

本作品は大阪府豊中市にある、製薬会社に整備された 919.8 m² の特殊緑化空間である。

特徴的緑化技術として、①木漏れ日をつくる壁面緑化バルコニー、②潤いをもたらすドライミスト設備、③地下から屋上までつながる立体的緑化の3点をあげている。

建築物中央部に設けられた大きな吹抜けは、上部が広がった形状をしており、通常のものよりも多くの光と風を取り入れることを可能としている。本作品は、この吹抜けの底部に当たる地下1階部にある中庭の竹林から、吹抜けを囲む形で設えられている2～8階までのバルコニーの緑化、また、屋上に設えられた薬草を含む庭園で構成されている。バルコニーの緑化は、木漏れ日のような柔らかい光を得るために、常緑で生育しやすいシマトネリコの株立ちをプランター植栽している。また、このバルコニーには、ドライミスト設備が導入されており、夏季は吹抜け内の空気を冷却し、冬季には保湿するなど、執務室の環境を快適に保つよう配慮している。千里丘陵の竹林をイメージした中庭の竹林から、2～8階までのバルコニー緑化、屋上の庭園まで緑が立体的に連続し、「健康な未来のオフィス」を体現している。

健康を見つめる製薬会社らしく、予防医学的な視点でオフィス空間に緑をふんだんに取り入れる工夫、垂直方向に設える緑を日常の中で享受する工夫がなされており高く評価された。



環境大臣賞：屋上緑化部門

新目黒東急ビル 屋上庭園

(所在地) 東京都品川区

(受賞者) 東急不動産株式会社

清水建設株式会社

株式会社フィールドフォー・デザインオフィス

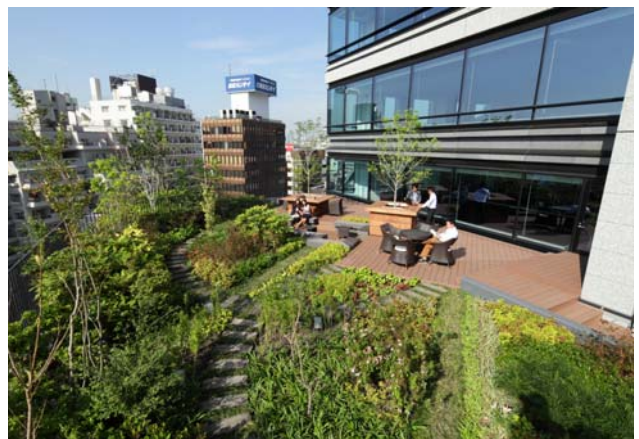
東光園緑化株式会社

■作品の概要

本作品は、東京都品川区にある事務所ビルで、4, 6, 8 階の屋上につくられた 617 m²の屋上庭園で、荷重は 640kg/m²である。特徴的緑化技術として、①特徴ある緑化計画と持続性のある維持管理技術、②オフィスワーキングと屋上緑化をつなぐ技術、③生物多様性に配慮した緑化の 3 点をあげている。

本作品は、働くことと緑とを密接に関係させることをコンセプトとして計画されており、建築物の配置を工夫し、地上部に緑のオープンスペースを設け、4・6・8F と段丘状に緑を連続させ「緑の丘のビル」を表現している。緑地を恒常的にワーカーに利用してもらえるように、L A N・コンセント対応のハイカウンターや掘込ベンチ等を設け、「庭で働く」ことを可能としている。また「養生スペース」を設け、タイムリーな植物の入れ替えを可能とすると共に、草花を切り出しトイレに生けるなどし、自然とのつながりを演出している。さらに、「生き物のポケットパーク」として環境向上に貢献することを目指し、調査に基づき誘致目標を設定し、鳥や蝶の好む植物を導入すると共に、樹名板に「小鳥を呼び込む木」「蝶を呼び込む木」を表現し、ワーカー生物多様性に対する理解を高めるための試みを行っている。

従来、テナントビルにおいては、「緑」は管理負担の増につながるものとして敬遠されがちであったが、本作品では、「緑」の価値や意味を利用者に伝える取組みを積極的に行っており、それにより、本作品の「緑」がビルにもたらす付加価値を高めている。このようなソフトと一体となった緑の設えと活動が高く評価された。



環境大臣賞：壁面・特殊緑化部門

緑ノビル

(所在地) 京都府京都市

(受賞者) 合同会社桐畑

株式会社宗本晋作建築設計事務所

長濱香代子庭園設計株式会社

■作品の概要

本作品は、京都府京都市下京区にある商業施設に整備された 53.69 m²の壁面緑化であり、特徴的緑化技術として、①緑が持つ誘目性、②壁面の緑化方法、③植物の選定の3点をあげている。

本作品の立地する四条通りは、極めて緑の少ない歩行空間であり、一層の緑化が求められるエリアとなっている。本作品では、テナントビルとして人を惹きつける高い誘目性と、京都の厳しい景観規制を満足させるひとつの手法として、ファサードの全面を覆う緑化を導入している。事前に、視線計測装置を用いて計測し、緑化されたビルが高い誘目性があることを確認し、壁面緑化を導入している。人間生来の緑に対する反応を利用した、誘目性の高い建築物づくりが実現している。壁面植栽基盤は、不織布のポケットに土を包み込む形状となっており、ポケットのサイズや位置は自由に調整可能なことから、植物に合せて良好な生育環境をつくることが可能となっている。壁面の中でも位置により細かく異なる気候条件(マイクロクライメイト)や立地条件を考慮し、植栽する植物を選定し配植されている。本作品は、壁面だけでなく屋上も緑化しており、屋上は地域のオープンスペースとして開放し、様々なイベントや環境学習の教室、買い物の際の休憩スペースとして利用されている。

ヒートアイランド現象をはじめとした環境面への貢献、地域景観への貢献、地域コミュニティへの貢献等、様々な社会的課題に対し建築物緑化がどのように貢献できるかという視点で多様な試みがなされている点等が高く評価された。



日本経済新聞社賞：屋上緑化部門

中之島 四季の丘 ・ ダイビル本館

(所在地) 大阪府大阪市

(受賞者) 関電不動産株式会社

ダイビル株式会社

株式会社日建設計

株式会社大林組

住友林業緑化株式会社

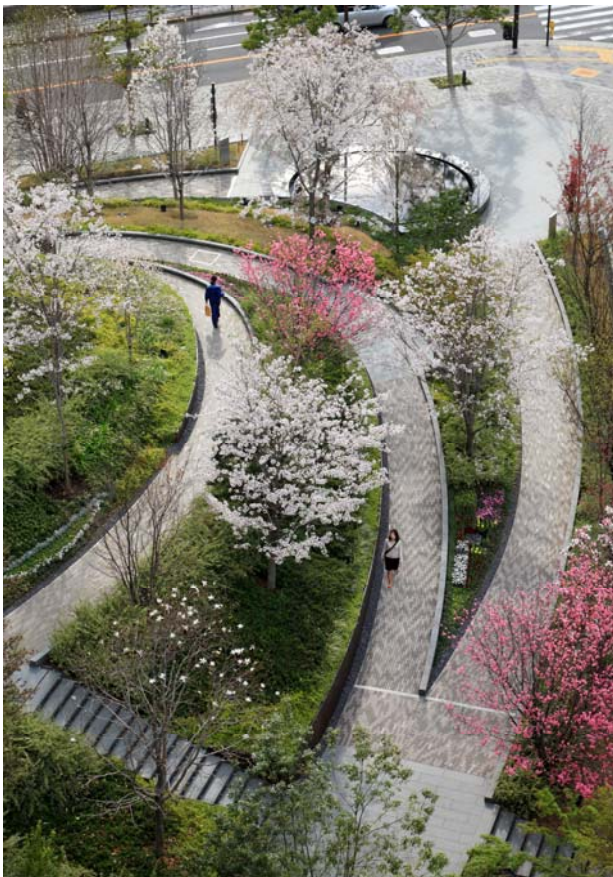
■作品の概要

本作品は大阪府大阪市にある、商業施設を含む事務所ビルで、1・2階及び、7階の屋上につくられた3,736㎡の屋上庭園で、荷重は平均で800kg/㎡である。

特徴的緑化技術として、①地下に都市施設を内包する緑量感のある緑の創出、②河岸の緑と一体となった四季感あふれる丘、③緑を引き立たせる都市的なランドスケープデザインの3点をあげている。

本作品は堂島川の川沿いに立地し、「緑豊かな水都大阪のシンボル空間」となることを目指している。河岸沿いの緑地や遊歩道と一体となり、オフィスワーカーをはじめ人々の憩いの場として親しまれている。地下の駐車場や熱供給施設を支える矩形躯体の人工地盤上に軽量盛土材を積載し、川側に緩やかに傾斜する「自然な丘陵状」を形成し、船上や対岸からの眺めを意識した緑地を創出している。河岸沿いの花木類との連続性を意識し、春に花を楽しむことができる花木を中心に植栽し、「花の丘」としている。「自然な丘陵状」にこだわる一方、堂島川への方向性を感じさせる煉瓦敷きのスロープや、コールテン鋼ウォール、ベンチと一体となった鏡池などが、緑を引き立たせる都市的なランドスケープデザインを演出している。

本作品は都市的な立体構造物を視覚的に大地と融合させ、堂島川という当該エリアでは貴重な市民の憩い・賑わい空間との連続性を確保するための工夫がなされており高く評価された。



日本経済新聞社賞：壁面・特殊緑化部門

京セラ原宿ビル耐震改修

（所在地）東京都渋谷区

（受賞者）株式会社フィールドフォー・デザインオフィス

清水建設株式会社

京セラ興産株式会社

■作品の概要

本作品は東京都渋谷区にある、既存オフィスビルの耐震ブレースを活用した 23.8 m²の壁面緑化である。

特徴的緑化技術として、①耐震ブレース形状と緑化パネル形状をあわせてユニット化、②フレーム内に給水ルートをつくる、の2点をあげてる。

事務所ビルの耐震補強工事及びエントランスのリニューアルに伴い、耐震ブレースを活用しながらデザイン性の高い緑化の実現を試みたものである。外壁として全面をふさぐことができないエントランス空間への耐震ブレース設置であるため、開口面積を確保しながらブレースのカバーを行うことが課題であった。そこで、耐震ブレース形状に合わせた三角形の緑化パネルユニットを製作し、ブレースをすっきりとカバーできるよう工夫し、耐震ブレースの機能を確保しながら、緑化により視覚的な仕上がりの美しさが両立できるよう工夫されている。

また、ブレースにより形成された三角形は、企業ロゴの形状でもあり、緑化パネルだけでなく照明やサインパネルとも形状を揃えることで、企業イメージをアピールすることにもつながっている。緑化パネル間の隠れた位置に給水ルートを確認し、各三角形ユニットヘッドリップ方式にて給水を行っている。

建築物の超寿命化や耐震化が社会的課題となるなかで、緑化と耐震補強工事の融合を試みた本作品は、建築ストックの有効活用を促すモデルとなると期待され高く評価された。



都市緑化機構会長賞：屋上緑化部門

プラウド大井ゼームス坂

（所在地）東京都品川区

（受賞者）プラウド大井ゼームス坂管理組合

野村不動産株式会社

株式会社日建ハウジングシステム

株式会社安藤・間

イビデングリーンテック株式会社

■作品の概要

本作品は、東京都品川区にある戸数 164 戸の集合住宅の、2 階～11 階の屋上につくられた大小さまざまな屋上庭園である（合計面積：1,290 m²，荷重：60～700kg/m²）。

特徴的緑化技術として、①屋上緑化技術で作る様々な屋上庭園、②雨水を利用した灌水システム、③地域を知り緑を楽しむマンションライフの3点をあげている。

本作品は、「風」が通り抜ける特性を意識した緑化計画となっており、「そよ風のガーデン」「観賞の庭」「成長の庭」「風を感じるガーデン」のほか、専用庭と共用庭からなるカスケードガーデンで構成されている。最上階（11 階屋上）の「そよ風のガーデン」では強風対策を、5 階屋上の「風を感じるガーデン」では、軽量土壌のマウンドにより奥行きを演出するなど、庭園毎に特徴を持たせる工夫が施されている。また、雨水を利用した灌水システムを採用し、節水・省エネの点でも工夫がなされている。2 階屋上部の「観賞の庭」及び4 階屋上の「成長の庭」等では、蜜源植物を多数植栽し、地域の「蝶の道プロジェクト」に協力している。カスケードガーデンの専用庭は、入居者が好みの植物を「メニュー」の中から選定することができるサービスなども提供されている。入居後も、ミニ植物図鑑「植物便り」の発行、「植物観察会」や「交流会」などを開催し、緑を楽しむマンションライフを提供する取組がなされている。

雨水を活用した灌水システム等、ハード面での工夫に加え、地域の緑化プロジェクトへの協力や、緑を介したコミュニティ形成の仕組みづくり等、地域とともに緑を育むプログラムの工夫が高く評価された。



都市緑化機構会長賞：壁面・特殊緑化部門

東急プラザ 赤坂 オープンコリドール

「野に咲く花の回廊」

（所在地）東京都千代田区

（受賞者）東急不動産株式会社

株式会社石勝エクステリア

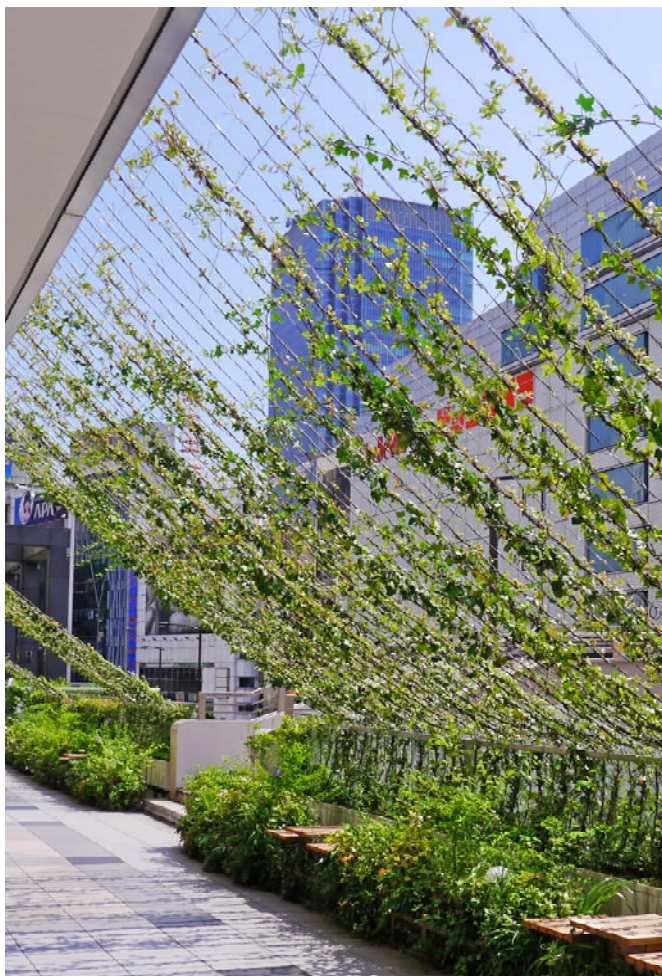
■作品の概要

本作品は東京都千代田区にある、ホテルを含む複合施設の2階店舗前オープンコリドールに整備された、1368 m²の緑化空間である。

特徴的緑化技術として、①「クライムサポート」誘引緑化工法、②「バイオキューブ」立体緑化工法、③「野に咲く花の回廊」を実現する維持育成管理の3点をあげている。

コリドールへの日射の遮蔽や蓄熱の軽減を図るため、つる性植物を用いて歩行空間に緑陰をもたらす緑化が施されている。本作品で導入されている「クライムサポート」誘引緑化工法は、植物が絡まりやすい材料と形状で、より速やかな帯状の誘引緑化を可能としており、低コスト、低加重による緑被率の最大化も実現している。「バイオキューブ」は、多面植栽が可能な立体緑化基盤であり、在来種の山野草を中心に上部には野趣に富んだ中低木をアクセントにした多品種混交植栽を行い、季節感豊かな潤いのある景観を創出している。特殊基盤での環境適正植物調査を行うなど、「野に咲く花の回廊」を実現する維持育成管理を実施している。

既存建築物における、公道と接する歩行空間への緑化の導入事例は稀である。極めて公共性の高い空間の緑化であり、四季を通じて草花で歩行者を楽しませる工夫などが高く評価された。



審査委員会特別賞：屋上緑化部門

Sg / Secret garden

（所在地）群馬県伊勢崎市

（受賞者）株式会社芦澤竜一建築設計事務所

■作品の概要

本作品は群馬県伊勢崎市にある、戸建住宅の平屋屋上部につくられた 172.84 m²の屋上庭園（果樹園）で、荷重は 390kg/m²である。

特徴的緑化技術として、①循環する果樹園、②家族と地域で共有するランドスケープをつくる、③FRP による屋上緑化の 3 点をあげている。

家族 4 人が住む住宅で、周辺環境と調和を意識し、機能ごとに分かれた気積の異なる 12 の居室をリング状に配置することで、住民は回遊し視点の高さを変えながら、表情の異なる緑を楽しむことができる。当該地が、元々農地であったという土地のコンテクストを継承し、屋根面をほぼ全て緑化し、果樹や野菜の収穫が楽しめる空間とすると共に、生活で生じた廃棄物（生ゴミ）を堆肥化できる「循環」の庭となっている。施工や維持管理には、現役で農業に携わっておられる施主の家族も参加しており、屋上果樹園は世代を超えた家族間のつながりの場となっている。近所の方々は、2 階の窓から果樹園の眺めを楽しめるほか、収穫物のお裾分けに与るなど、この緑を共有し楽しめる空間となっている。FRP による防水を採用し、雨漏りリスクの少ない強い防水仕上げとし、屋上のほぼ全体に、30cm の厚みで地元の赤土を敷き詰め、3 m 程度に生育する中高木の苗木が植栽されている。

個人宅の屋上に果樹園を造るという挑戦が高く評価されると共に、建築物の高さを様々に変えることで、多様な緑の見え方楽しみ方を創出する工夫などが高く評価された。



審査委員会特別賞：屋上緑化部門

灘中学校高等学校

（所在地）兵庫県神戸市

（受賞者）学校法人灘育英会灘中学校高等学校

株式会社日建設計

株式会社竹中工務店

株式会社朝日興産

野崎造園土木株式会社

■作品の概要

本作品は、兵庫県神戸市東灘区にある中学校高等学校の校舎の、2～4 階屋上につくられた 622.19 m²の屋上庭園で、荷重は 300kg/m²である。

特徴的緑化技術として、①学校の未来を見据えた樹種選定、②竣工時の緑量を得るための事前現地養生、③竣工後 2 年間の定期巡回とメンテナンスの 3 点を挙げている。

本作品は、1928 年の開校当初の姿をとどめる本館（登録有形文化財）を有し、耐震改修や機能更新のため、構内全体の校舎再整備の一環として緑地の創出がなされたものである。1・2 号館の間に増築された図書館棟の屋上を庭園として整備したほか、耐震改修の格子梁上や図書館棟へ続く大階段の両脇に緑化ボックスを設置し、立体的に校内全体が緑で囲まれるように工夫されている。基本方針として、当該地のある六甲近郊に生育している樹種、もしくは日本在来の樹種を植栽材料として選択している。このことは、外来種の流出リスクを回避するとともに、生徒が自身の育つ地域環境に生育する植物を学ぶことができるという点も狙いとなっている。緑化ボックスについては、予め既存校舎の屋上で約 8 か月間養生し、十分な緑量を得たものを設置することで、竣工時にボリュームある緑の仕上がりを実現している。この緑化ボックスは、設計当初から、2 年間の定期巡回とメンテナンス込みで発注されており、良好な維持管理・運営が実現している。

建築物の長寿命化や耐震化が社会的課題となるなかで、本作品は、緑化と建築物の耐震化を組み合わせ、安全、安心と緑によるアメニティー性の向上を両立している点等が評価された。



第13回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール
審査委員会出席者名簿

《審査委員》

委員長	近藤 三雄	東京農業大学 名誉教授
委員	井上 洋	一般社団法人 日本経済団体連合会 社会広報本部長
	仙田 満	東京工業大学 名誉教授
	野口 智子	ゆとり研究所 所長
	真部 保良	日経 BP 社 日経 BP インフラ総合研究所 主席研究員
	森本 幸裕	京都学園大学 バイオ環境学部 教授
	山崎 誠子	日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科 准教授
	山田 宏之	大阪府立大学 生命環境科学部 教授
	町田 誠	国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室長
	真先 正人	環境省 水・大気環境局 総務課長
	笹井 俊克	一般財団法人 日本建築センター 専務理事
	宮下 和正	公益財団法人 都市緑化機構 専務理事